

※水色と黄色のセルは回答必須。薄緑色セルは任意。申請書の段階から項目3に変更があった場合、直接入力の上書きして下さい。

(一財)全国地域情報化推進協会 御中

報告日 2019年11月7日

派遣決定番号

地域情報化アドバイザー制度活用報告書(1日目)

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

| | | | |
|-------|-------------------------|---------|--------------|
| 団体名 | 氷見市 | 代表者名 | 市長 林 正之 |
| 担当者部署 | 産業振興部 | 連絡先電話番号 | 0766-74-8106 |
| 担当者役職 | | 担当者氏名 | |
| 住所 | 935-8686 富山県氷見市鞍川1060番地 | | |

1-2. 推薦団体(「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力)

2. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

| | |
|-----------------------------|--|
| アドバイザー | 細川 哲星 |
| 評価 | 大変よい |
| 上記評価の理由(どのようなところがよかったか等詳細に) | 滞在型観光の推進を目指す本市にとって、観光客の滞在時間、立寄箇所数等の増加につながる体験プログラムの全国的なトレンドを知ることができ大変よかった。「地方では早朝と夜の体験プログラムが設計できていない」という話は今後、本市でプログラムを造成するうえで、参考になるアドバイスであった。 |
| アドバイザーへの要望事項 | 本市と人口規模や自然環境が類似している市町村の体験プログラムの現状について知りたい。また、それを支える人材育成や運営体制づくりにむけた支援および助言をお願いしたい |

3. 地域情報化アドバイザー派遣実績

| | 派遣日 | 開始時刻 | 終了時刻 | 内休憩時間(分) | 活動時間(分) |
|-----------|------------|-------------|--------|----------|---------|
| 3-1. 活動 | 2019年11月1日 | 13時00分 | 16時00分 | 60 | 120 |
| 3-2. 派遣場所 | 会場名 | 氷見市役所 | 最寄駅 | JR氷見駅 | |
| | 所在地 | 氷見市鞍川1060番地 | | | |
| | 最寄駅からの交通手段 | タクシー等 | | | |

4. 報告書に関するAPPLICホームページへの掲載許可

| | |
|------|--------------------------------------|
| 掲載許可 | <input checked="" type="radio"/> 掲載可 |
|------|--------------------------------------|

5. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

| | | |
|--|--|-------------------------|
| 5-1. 支援を受けた対象者 | 属性(職員、一般、企業等)について【自由記述】 | 人数 |
| | 氷見市役所職員 | 3人 |
| 5-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果 | | |
| 事業の課題・問題点(具体的にご記入下さい) | 本市を訪れる観光客の市内での平均滞在時間は3時間程度と短い状況にある。滞在時間は観光消費額と直結するため、地域経済効果が十分発揮されるよう、滞在時間を延ばす仕組みづくりとして体験プログラムのPRと造成が必要である。本市における体験プログラムは、氷見沖クルージングや細工かまぼこ絵付け体験など修学旅行者向けが多く、天候に左右されるものが多いことが課題である。そのため、通年で実施できる体験プログラムの造成に取り組む必要があると考えている。 | |
| 支援により目指す成果(具体的にご記入下さい) | 本市における「オーセンティックな農山漁村の価値」を再構築するとともに、広域観光・インバウンドにつながる新たな体験プログラムを造成する。また、既存の体験プログラムのPR方法改善による応募者数の増加を目指す。 | |
| アドバイザーに支援を受けた内容(具体的にご記入下さい) | 体験プログラムの全国的なトレンドの紹介および、本市における体験プログラム造成に向けた企画開発、プロモーション等に関するアドバイス。 | |
| 支援を受け改善又は解決された内容(具体的にご記入下さい) | 本市の既存の体験プログラムの種類が豊富であり、PR方法を工夫することで観光客の増加につながる可能性があることについて再認識することができた。また、新たに山間部での体験プログラムを増やす余地があることや、漁業文化交流センター等観光施設を活用し、既存の体験プログラムを一堂に集めたイベントを開催することなど、参考になる多くのアドバイスをいただいた。 | |
| 具体的な成果物 | 最も当てはまるものをリストより選択下さい。 | ⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない |
| | 制度活用3日目に公開勉強会を開催し、体験プログラムの造成に向けた地域住民等の啓発につなげたい | |

| | | |
|--|---|-------------------|
| 改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください) | 本市と人口規模や環境が類似した市町村の体験プログラムの事例紹介や、プログラム造成につながる具体的なアドバイス | |
| アンケートの内容と分析結果 | 講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。)アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 実地での事前打ち合わせであるため、アンケートは実施しなかった。制度活用3日目に予定している公開勉強会ではアンケートを実施する予定。 | |
| 5-3. 今後の計画 | 最も当てはまるものリストより選択下さい | ④予算以外で、今後取組む事項がある |
| 事業の最終的な目指す姿 | 来年度中に、農山漁村エリアにおける滞在型観光の拠点となる施設(古民家等)やフィールドでの体験プログラムづくりを行う。最終的には収益性を確保できるもとし、地域の稼ぐ力の育成等につなげる。 | |
| 6. 地域情報化アドバイザー支援の様子 | | |
| 今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG)」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。 | | |
| <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div> | | |